

中高生が気管挿管体験

松波病院で医療セミナー

中高生が医療の現場で、笠松町田代の松波を学ぶ「夏休み医療実習体験セミナー」が7地区の中高生6人が実



喉頭鏡を使った気管挿管を体験する生徒＝笠松町田代、松波総合病院

習などを通して仕事への理解を深めた。

医師の不足や偏在の解消に向け、県が本年度始めた「地域医療を支える人づくり事業」の一環で開催。県内の医療機関の協力で、1日から26日まで、計14カ所で21日間にわたり実施している。

同病院では救急総合診療科などを見学。医師から各科の役割について説明を受けた後、心肺蘇生法や風景画を描いて心の状態を探る心理療法を体験した。麻酔科では、喉頭鏡を使った気管挿管を実習し、生徒は熱心に練習を繰り返していた。

岐南中学校2年の脇田理加さん(13)は「早く挿管ができるようになり、うれしかった。覚える用語も多く大変だが、医療の仕事をやってみたいと思った」と話していた。

(亀山大樹)